

弁 明 書

6 企 第 3 9 号

令和 6 年 7 月 3 日

江別市長 後 藤 好 人



審査請求人 [REDACTED]（以下「審査請求人」という。）が令和 6 年 6 月 6 日付けで提起した公文書公開決定（令和 6 年 4 月 18 日付け 6 企第 9 号）に対する審査請求について、次のとおり弁明いたします。

1 審査請求の趣旨に対する意見

「本件審査請求を棄却する。」との裁決を求めます。

2 本件処分の経緯、内容及び理由

- (1) 令和 6 年 2 月 13 日付けで、公文書公開請求を受理。
- (2) 令和 6 年 2 月 27 日付けで、一部公開の旨決定し通知。
- (3) 前項で公開した内容を受け、令和 6 年 4 月 5 日付けで追加の公文書公開請求を受理。
- (4) 前項の請求に対し、該当の公文書が存在せず、令和 6 年 4 月 18 日付け 6 企第 9 号にて公文書の不存在を通知。

3 審査請求人の主張に対する意見

(1) 審査請求人の主張「公文書不存在処分の不当・違法」アについて

今般の「公文書不存在通知書」は、江別市情報公開条例第 11 条第 2 項及び江別市情報公開事務取扱要綱第 6 条第 3 項に基づき作成し、通知したものです。

請求対象の公文書については、廃棄の決定に係る記録を確認できなかったため、当初から不存在であったものと見込みました。しかしながら、そのことについて確定的な回答は困難であったことから、公文書不存在の理由の明記に至らなかったものです。

(2) 審査請求人の主張「公文書不存在処分の不当・違法」イからエまでについて

審査請求人は、これまで当市が別に関示した他の文書の態様に鑑み、求める情報である「説明・協議の記録」が、公文書として独立し存在するという前提に立ち、今般の主張に至ったものと思料します。

しかしながら、業務上行われる協議や意見交換などの結果を共有する手段については、報告書などの書面のほか、口頭による場合もあるなど、その在り方は必ずしも一様ではありません。

そのため、審査請求人が求める情報が、公文書として独立して作成・保存されていないことは、必ずしも「不自然」あるいは「不合理」と断定することはできず、「不当」と認めることはできません。

また、公文書等の管理に関する法律第4条は、同法第2条に規定する行政機関に適用があるもので、地方公共団体については同法第34条におきまして「地方公共団体は、この法律の趣旨にのっとり、その保有する文書の適正な管理に関して必要な施策を策定し、及びこれを実施するよう努めなければならない。」と規定されています。

当市が野幌森林公園事務所と協議を行った事実及びその結果は、今般、審査請求の要因となった、看板設置の意思決定をする起案文書（平成16年11月16日起案）において、審査請求人が引用したとおり「本件については地元の自治会長、石狩森林管理署長、野幌森林公園事務所長、（略）に対して説明を終え理解されている。」と記載があります。

また、続く「*参考」においても、「従来、市道と市道をつなぐ、国で云う林道、道で云う歩道を車が通行してきた経過の中から園内における道路の整合性を図るため、石狩森林管理署、公園管理事務所との協議の中で、登満別の駐車場から瑞穂入口の駐車場までを便法上歩道と位置付けるもので、市としてこれを廃止あるいは自転車・歩行者専用道路への変更をしようとするものではない。」と記載があります。

これらの記載内容は、審査請求人が求める「説明・協議の記録」の詳細そのものであり、当該起案における「経緯・意思決定に至る過程」の説明に該当することから、公文書等の管理に関する法律の趣旨に反するものではありません。

(3) 審査請求人の主張「公文書不存在処分の不当・違法」オについて

審査請求人の主張に対する意見は上記3(1)及び(2)のとおりであり、審査請求人の情報収集活動を阻害するものではなく、また、審査請求人の「知る権利」を侵害するものではないことを申し添えます。

4 証拠書類等の表示

- (1) 江別市情報公開条例（抄） 第1条、第2条、第11条を抜粋したもの
- (2) 江別市情報公開事務取扱要綱（抄） 第1条、第6条を抜粋したもの
- (3) 公文書等の管理に関する法律（抄） 第1条、第2条、第4条、第34条を抜粋したもの
- (4) 平成16年11月16日起案文書「野幌森林公園内の市道に交通規制の看板を設置することについて」